

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

| | | |
|--------|--------|-------------|
| A時点: - | B時点: - | C時点: 22. 7月 |
| | | |

| | |
|-----------|--------------|
| 局名 | 産業経済局 |
|-----------|--------------|

| | | |
|-------------|---------------|---------------------|
| 基本計画 | 柱 | いきいきと働く |
| | 大項目 | 高付加価値産業の創出 |
| | 取組みの方針 | ものづくりを支える地域企業の競争力強化 |

| | | |
|---------------------|------------|-------|
| 担当局 / 総務担当課名 | 産業経済局 | 産業政策課 |
| 連絡先 | 582 - 2299 | |

21年度計画

-1-(3)-

| | |
|------------|--------------------|
| 施策名 | 知識サービス産業の振興 |
|------------|--------------------|

| | | |
|--------------|---------------------|--|
| 施策の概要 | 何(誰)をどのような状態にしたいのか。 | デザインや設計、研究開発、コンテンツ制作など、ものづくりの競争力の強化につながる知識産業サービス産業の振興を図ります。特に、ものづくりの高付加価値化に重要な役割を果たすデザインについて、地域企業のデザイン力の強化とデザイン関係者の取引拡大を促進します。 |
| | その結果、実現を目指す取組みの方針名 | ものづくりを支える地域企業の競争力強化 |

| | 成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方) | | 現状値 | | 平成21年度 | 目標値 | |
|--------------|---|--------|--------|----------|-----------------------|--------|--------|
| | 年度 | 平成21年度 | 計画 | 実績 | | 年度 | 平成25年度 |
| 施策の成果 | デザイン勉強会等育成企業数 | | 計画 | - | 年度 | 平成25年度 | |
| | デザインはものづくりを進めていく上で大きな構成要素となるものであり、デザインの土壌を築いていくことは重要であることから、デザイン勉強会に恒常的に参加している企業数を施策実現の指標として設定しました。 | 現状値 | 6 | 実績 | 6 社 | 目標値 | 10 |
| | | | | 達成度 | % | | |
| | | 年度 | | 計画 | | 年度 | |
| | | 現状値 | | 実績 | | 目標値 | |
| | | | | 達成度 | % | | |
| | 年度 | | 計画 | | 年度 | | |
| | 現状値 | | 実績 | | 目標値 | | |
| | | | 達成度 | % | | | |
| コスト | A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額] | | 事業費 | 1,411 千円 | 構成事業にかかった人件費の目安(21年度) | | |
| | | | うち一般財源 | 1,411 千円 | 8,100 千円 | | |

局施策に対する担当局の評価

| | | |
|-------------------|--|--|
| 局施策の評価 | 21年度評価 | 主な分析理由 |
| | B | デザインは、ものづくりの高付加価値化に必要な不可欠であり、研究開発の要素を含むものです。したがって、地域企業のデザイン力の強化やデザイン関係者の取引拡大を図るためには、勉強会等により、デザインに関心を持つ企業を育成することが重要であり、平成21年度の6社は、平成25年度の目標達成に向け、順調な推移だといえます。 |
| 今後の局施策の方向性 | 今後もデザインの必要性について、関係機関と協力してPR活動を行うとともに、より効果的な方法で事業を推進していきます。 | |

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

知識サービス産業の中でも、なぜデザインなのかがもう少し分かる説明が必要と考えます。事業スタート時点でやむを得ない部分もありますが、勉強会参加企業数は施策の成果指標には馴染みにくいと考えます。今後、より良い指標になるよう検討されることを期待します。

事業評価票

| | | |
|------------|----|----|
| 平成21年度実施事業 | 新規 | 継続 |
| | | |

| | | |
|--------|--------|------------|
| A時点: - | B時点: - | C時点: 22.7月 |
| | | |

| | | |
|-------|----------|--------|
| 担当局/課 | 産業経済局 | 新産業振興課 |
| 連絡先 | 582-2910 | |

| | | |
|------|--------|---------------------|
| 基本計画 | 柱 | いきいきと働く |
| | 大項目 | 高付加価値産業の創出 |
| | 取組みの方針 | ものづくりを支える地域企業の競争力強化 |
| | 主要施策 | 知識サービス産業の振興 |

| | |
|------|------------|
| 関連計画 | 北九州市産業雇用戦略 |
| 事業期間 | H18～ |
| 経費区分 | 裁量の経費 |

-1-(3)-

| | |
|-----|----------------|
| 事業名 | 中小企業産業デザイン振興事業 |
|-----|----------------|

| | | | | |
|-------|---------------------|--|-------------|----|
| 事業の概要 | 何(誰)をどのような状態にしたいのか。 | ものづくりの高付加価値化に特に重要な役割を果たすデザインについて、地域企業とデザイナーとのマッチングや産業デザインをテーマとするセミナーの開催などにより、地域企業のデザイン力の強化とデザイン関係者の取引拡大を促進させます。なお、デザイン勉強会については、福岡県産業デザイン協議会に負担金を拠出し、同協議会が運営するという方法を用いて実施しています。 | | |
| | その結果、実現を目指す施策名と成果 | 施策名 | 知識サービス産業の振興 | 成果 |

| | | | | | | | | | | |
|---------------|---------------------------------------|---|----------|--------|--------|--------|---------|---------------------|----|---------|
| 目的実現の為に実施する内容 | 実施工程 | 当初計画 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 計画変更理由 | | |
| | | 現状 | 育成企業数 6社 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | | | |
| | 実施状況 | 成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方) | | | | | | 平成21年度 | 目標 | |
| | | デザイン勉強会等育成企業数 | | | | | 計画 | - | 年度 | 平成25年度 |
| | | デザインはものづくりを進めていく上で大きな構成要素となるものであり、デザインの土壌を築いていくことは重要であることから、デザイン勉強会に恒常的に参加している企業数を施策実現の指標として設定しました。 | | | | | 実績 | 6社 | 内容 | 10社(単年) |
| | | | | | | | 達成度 | % | 内容 | |
| コスト | A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度:執行額) | | | | | 事業費 | 1,411千円 | 事業にかかった人件費の目安(21年度) | | |
| | | | | | | うち一般財源 | 1,411千円 | 8,100千円 | | |
| 単年度計画 | | | | | | | | | | |

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

| | | |
|------|-------------------------------------|---|
| 実施結果 | 21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 | 市内企業6社がデザイン勉強会に参加しました。そのうち、2社が福岡県産業デザイン賞に応募し、受賞には至りませんでした。デザインに意欲的に取り組む企業が芽生え始めました。 |
|------|-------------------------------------|---|

【事業の再検証】

| | | | | |
|--------|---|---|--|--|
| 評価 | 有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。 | 3 | 中々成果が見えにくい事業ですが、デザイン勉強会では新規に参加する企業もあり、地域企業のデザイン力強化に効果はあると考えます。 | |
| | 経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。 | 4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い | 4 | デザイン勉強会では、市は実施主体である福岡県産業デザイン協議会に対し、負担金を拠出しています。同規模の勉強会を市が単独で実施するより、安価で実施できると考えられるため、今後も同様の方法で実施し、引き続き事業費の低減に努めていきたいと思えます。 |
| | 適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。 | | 4 | 施策の実現のため、継続的に実施していくことが重要です。関係者からも、事業の継続的な実施を求められています。 |
| | 市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。 | | 3 | コストを抑え、かつデザインに関心のある市内企業を少しでも増やすため、今後も市は、県や大学等関係者と協力して事業を実施すべきと考えます。 |
| 今後の方向性 | 評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 | ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了 | ア | デザイン勉強会は、企業、デザイン関係者、学識経験者、行政の4者が参加するため、企業間の連携やデザイン関係者とのマッチングが期待される等、施策に対する有効性は高いと考えます。今後もデザイン勉強会を継続的に実施し、事業目標の達成を目指していきます。 |